長崎市の眼鏡橋は川面に映った影が双円形を描くことから命名された

Reporter

村上清子さん

Reporter's Eye

橋マニアが行く！ 地域のお宝再発見ツアー

9月、“地域のお宝再発見”と銘打った「橋の日」実行委員会開催のツアーに初参加しました。このツアーは、2012年より、「橋」の見学をメインテーマに年に一度行われています。第4回目となる今回は初めての県外。長崎と熊本を巡る1泊2日の旅でした。

今回のメインイベントは、長崎市の女神大橋の主塔への登頂

塔内部の階段をひたすら登っていく

登頂、バンザーイ♪

「橋の日」実行委員と参加者の面々。女神大橋の主塔175 mの登頂後、パチリ

一人ひとりの名前が入った登頂証明書をいただきました！

二俣橋には恋人の聖地としても人気

熊本県下益城郡中央町の二俣橋

熊本県上益城郡山都町の通潤橋

一日目　長崎編
高さ175mの主塔に立つ

出発地は宮崎県庁前。途中で食事を済ませ、13時50分、第一の見学地・長崎市の「女神大橋」に到着しました。初っ端から今回最大のイベント〝女神大橋の主塔に立つ〟に挑戦です。女神大橋は、長崎港をまたぎ、斜張橋では九州最長、国内では6番目、世界では17番目の長さ。海面からの高さは65mで日本一、主塔は海面から175mです。ちなみに宮崎市平和台の平和の塔が高さ36・4m。主塔がいかに高いかが想像できます。この主塔に立つという試みは、実はまだモニター段階で、「橋の日」実行委員会事務局長・鶴羽 浩さんご尽力で、実現の運びとなったのです。

ヘルメット、安全ベルトを装着後、いざ、塔内部の急傾斜の階段、180度のはしご段を上り中間部へ！　この中間部では、なんと一旦外部へ出る場所が！　ワクワク、ドキドキ、そして、ちょっぴりしんどい、山登りと同じで下りは体力的にもっと大変かもなあ……いろいろな気持ちが入り混じり、引き返すことはできないという緊張感を背負い、黙々とひたすら一歩ずつ階段を上がっていきます。時計を見る余裕がなく、どの位の時間を費やしたのか、時間感覚はあやふやです。そして、やっとの思いで主塔登頂！　外へ出て全員で万歳をしました。満足感に浸りながら、長崎港、遠くの端島（軍艦島）を眺めました。同じルートを下って地上に戻り、各自名前入りの登頂証明書をいただき、再度感激しました。

熊本県上益城郡御船町の下鶴橋

稲佐山では夕景にも感動！

約800mの距離に12もの石橋

次に向かったのは中島川石橋群です。街中を流れる中島川の一帯には、約800mの距離に12もの石橋が掛かっています。そのひとつに有名な眼鏡橋があります。なぜ、多くの石橋が作られたのが不思議ですが、それぞれ橋の先にはお寺があり、僧侶が往来のために架けたという説にうなづきました。

一日目の最後は、稲佐山の夜景を見学に。長崎の夜景は、香港、モナコと並んで世界三大夜景に選ばれています。

二日目　熊本編
二俣橋は恋愛スポット

熊本には数多くの石橋があります。1800年代、地域をそれぞれ、現在の郡にあたる村に分け、行政の責任者は総庄屋として配置されました。総庄屋が自分の村を守るために石橋を築いたのではないか、と私は考えます。200年以上経過した今なお残る橋の数々に、先人達の偉業をただただ讃えるばかりです。

この日巡ったのは、切石一つひとつを丁寧に川石でつなぎ、石には番号を記した門前川眼鏡橋や、幅が6m36cmと広い下鶴眼鏡橋など。10月から2月の11時半から12時にかけて、石橋のアーチに差し込む光が水面に反射して、ハートのように見える二俣橋は、カップルに人気のスポットです。

男性17名、女性3名の20名が参加し、橋の専門家、研究者から主婦まで、幅広い層が集った今回のツアー。和気あいあいの雰囲気はとても居心地が良く、まるで橋が人との絆もつなげてくれたように強く感じました。また、思い思いに見学し、感じ入る光景は修学旅行のようでした。奥深い橋の世界への探究がますます高まった旅となりました。

＊このページは jupia の読者リポーターの皆さんがつくるページです。